

# 地理歴史

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
地理歴史	日本史A	2	3年次・G群	選択

目 標			履修の条件・連絡		
1 日本の近現代について詳しく学び、歴史的なものの見方や考え方を身に付け、歴史について主体的に学ぶ態度や学び方を身に付ける。 2 日本や世界の歴史の流れや、生活・文化の地域的な特色について理解する。 3 国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を身に付ける。			・履修の条件は無い。 ・特に、幕末・明治・大正・昭和といった近現代史を学びたいと考えている生徒が対象である。		
使用教科書 (出版社)		高等学校 改訂版 日本史 A (第一学習社)	副教材 (準備物)		
		なし			
学 習 の 年 間 計 画	期	月	学習内容 (単元・項目)	学 習 の ね ら い	
	1 学 期	4月	第1章 近代国家の形成と国際関係の推移 第1節 近代への胎動 ①せまってくる外国船 ②ちからを蓄える庶民 ③近代思想のいぶき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代学習の導入として、開国をむかえるまでの日本の状況を理解する。</li> <li>・開国に至る経緯と、幕府の対応について理解する。また、開国以後の情勢のなかで、尊王攘夷運動や討幕運動がおこり、幕府が崩壊した一連の流れを理解する。</li> <li>・明治新政府の成立当初のねらいを五箇条の誓文、廃藩置県・版籍奉還などの諸政策と関連させて理解する。</li> <li>・封建的身分制度の撤廃など、明治政府の初期の諸政策によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。</li> <li>・明治前半では条約改正が最大の外交課題であり、この克服においては、国際情勢と国内情勢が密接に関係し、進められたことを理解する。</li> </ul>	
		5月	第2節 明治維新 ①黒船がやってきた ②志士たちの時代 ③手を結ぶ薩長		
		6月	第3節 近代国家の確立 ①江戸が東京になった ②天皇の軍隊がつくられた ③スローガンは「富国強兵」		
		7月	第4節 国際関係の推移と近代産業の発展 ①欧米と肩を並べる国をめざして ②清国との対立が深まった		
	2 学 期	9月	第2章 両大戦をめぐる国際情勢 第1節 第一次世界大戦と日本 ①民衆が政治を動かすはじめた ②最初の世界大戦に日本も参戦した ③成金の時代がやってきた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次護憲運動・第二次護憲運動をはじめとする民衆運動の盛り上がり、大正期の政党政治の展開について理解する。</li> <li>・日本が第一次世界大戦に参戦した理由について理解する。</li> <li>・第一次世界大戦が日本の外交政策に与えた影響について理解する。</li> <li>・国内的な第一次世界大戦以後の慢性的な不況と、国際的な世界恐慌による資本主義諸国の経済危機について把握し、日本および各国が、このような状況をどのように克服していったのかを理解する。占領軍による対日占領政策民主化の諸改革の内容について理解する。</li> </ul>	
		10月	第2節 第二次世界大戦と日本 ①恐慌の嵐が吹きあれる ②日本の外交が行きづまる ③軍部の暴走がはじまった		
		11月	第3章 現代を生きる私たち 第1節 日本の再出発 ①占領軍がやってきた ②日本が生まれかわる ③新しい国のしくみ		
		12月	第2節 独立後の政治と経済の発展 ①平和への願いが叫ばれた ②保守と革新の正面衝突 ③奇跡の経済成長がはじまった		
	3 学 期	1月	第3節 現代の日本と世界 ①2つのショック ②経済大国が誕生した ③消費はファッションになった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主権回復後の国内的な政治の推移と、新しい外交関係の確立の動きについて理解する。</li> <li>・主権回復後の政治の動きに関連して、様々な国内的な動きが起こったことに着目する。</li> <li>・石油危機にともなう日本国内の動きを、国際情勢の動向をふまえて理解する。</li> </ul>	
2月					
3月					
学 習 評 価	観	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
	規 準	授業の内容に関心をもち、板書をとっているか。 意欲的に授業に取り組んでいるか。	授業中の質問に対して学習したことをもとに答えられるか。 歴史的なものの見方・考え方ができているか。	板書するだけでなく、自分で調べたことを加えたノートを作ることができるか。	授業中に学習した事項を理解し知識として身に付けているか。 基本的な歴史事項を理解し、歴史の流れを身につけているか。
	手 段	・授業中の態度の観察 ・提出物の提出状況	・授業中の応答の観察 ・定期考査とレポート	・授業中の態度の観察 ・授業用ノートの内容	・授業時の小テスト ・定期考査
	価 値	各学期や年間の学習状況の評価方法		・定期考査は、年5回。各回とも考査点70%。平常点30%で評価する。 ・授業態度・小テスト・提出物状況から平常点をつける。	
学 習 上 の 留 意 点	・教科書・副教材・ノートなど授業に使う物は、忘れず持ってくること。 ・授業のノートや課題プリントなどは必ず提出する。				